

キャンパス FM と BCP —大学における事業継続計画の考え方—

大学行政管理学会ファシリティマネジメント研究会 世話人 尾崎 健夫

1. キャンパス FM

「企業・団体等が保有又は使用する全施設資産（土地、建物、構築物、什器など）及びそれらの利用環境を経営戦略的視点から総合的かつ統括的に企画、管理、活用する経営活動」（JFMAのHPより）をファシリティマネジメント（略して「FM」という。）という。2006年に大学行政管理学会ファシリティマネジメント研究会が設立され、キャンパスFMの概念が徐々に認知されてきている。その詳細については、大学行政管理学会ファシリティマネジメント研究会編「キャンパス再生のすすめ—これだけは知っておきたいキャンパスFM」（学校経理研究会発行）を参照していただきたい。

FMにかかわる業務は、近年アウトソーシングされてきている。その結果、業務が圧縮し改善されるケースもあるが、業務の境界が見えにくい場合もあり、想定外の対応で少なからず課題が生じている場合も見受けられる。アウトソーシングが進展したとしても、FMに何らかのかたちで関わる大学職員は存在する。FMの責任を担う者が、従来と同様にキャンパスFMの質を左右している。エフエム・パートナーズ・ジャパンのクレイグ・カックス氏は、FMに関わる者の心構えとして、

This is my building.

This is my problem.

This is my solution.

という自覚が極めて重要だと述べている。図書館の場合であれば、

This is my library.

と置き換えて、図書館員やそのFMに関わる方々が、施設の本質的な課題に真摯に向き合うことが第一歩なのではないだろうか。また、「失敗学」などで知られる畑村洋太郎氏は、その著書で「3つの現」すなわち、

現場、現物、現人

という視点が大切だとも述べている。昨今、さまざまな施設等に起こっているような事故を回避し、安全を確保するためには、机上の考え方やコンピュータに頼るだけではなく、現場とそれを取り巻く実際の状況を直接、把握しなければならない。



2. FMの品質と耐震性

防災やBCP（事業継続計画）の観点からは、FMの目標の一つである「品質」の確保が要になる。教育、研究施設の寿命は、他の用途の施設くらべて相対的に長い場合が多い。従って、その劣化や老朽化による安全性の低下を、未然に回避しなければならない。人間の健康診断と同様に、定期的な診断・点検が不可欠である。中長期修繕計画を作成しておき、診断・点検の結果、修繕や改修の時期を考慮すべきである。ハインリッヒの法則では「1件の重大災害の陰には29件のかすり傷程度の軽災害があり、その陰には300件のケガではないが、ひやっとした体験がある。」とされている。施設等の不具合に早期に気づき、手立てを講じておけば重大災害の多くが、回避できるはずである。

国内では、二つの大震災を経て、建築物の耐震性は確保されつつあるといえるであろう。しかし、建築物の躯体ではなく非構造部材や什器などの耐震性、安全性については、どうだろうか。書棚、ガラスケース、ラック、コピー機、天井そのものと、そこからの吊るされた機器などは、大きな揺れが起きた場合に対して、人的な被害を及ぼさないような配慮が、十分に為されているといえるだろうか。その安全に対する責任は、不明確な場合も少なくなく、また誰かに任せただけで、それで良いと言い切れるものでもない。現場の状況を最もよく知る人間が、防災の知識と知恵を身につけ、事故を回避するための適切な配慮をしておかなければならないであろう。

3. 大学におけるBCPの考え方

寺田寅彦は、その著書「天災と国防」で、文明が進むほど災害が大きくなるという逆説的な考え方を示していた。これはジェラルド・J・S・ワイルドによるリスク・ホメオスタシス理論に通じることともいえる。言い替えれば、安全の手立てをすればするほど人間の意識は、むしろそれに安住してしまいがちで、その結果、事故や災害は、さほど減らないという考え方である。我々は、日頃から災害に対する十分な備えをしていなければならないのは当然だが、備えをしておいたから、もう安全だと安心しきらないことも、肝要なのである。

大学におけるBCPは、各大学の立地条件などによって大きく異なるはずだが、災害時に最も優先すべき事業や業務が何なのかを、常に適切に判断できるような体制を準備

しておくべきであろう。また、いざというときに参集できる教職員と、その人数を把握しておくことによって、大学としての緊急時の対応のしかたも、自ずと想定が可能になるであろう。そのうえで、初期、初動における的確な決断が最善の対応となるようにしたい。最悪の場合でも、相当の減災につながるといえるのではないだろうか。3.11 での東京ディズニーランドでの来館者への的確な対応は、マスコミ

で大きく取り上げられた。

Safety、Courtesy、Show、Efficiency
が東京ディズニーランドでのポリシーだという。大学の場合では、防災 e-learning というシステムを使い始めている例もある。大学における BCP のあるべき姿としては

Safety、Learning、Imagination、Management
が、今後のキーワードになると言えるのではないだろうか。